

# はじめに

8月末には、分散登校による始業式が2日間に分かれて行われた。令和3年度も、新型コロナウイルスの影響による「新しい生活様式」の中で、制約を受けながら教育活動を進めていくことを余儀なくされた。10月過ぎ感染が徐々に減少し、2学期は通常の教育活動を模索しながら進めることができたが、3学期は新種株による子供への感染の影響から、再び緊迫した学校生活を送っている今がある。子供が、教室や学校にて教師や友達の顔を見て、空気感を肌で感じて心に響かせながら成長する。こうした本来の教育の在り方を求めつつも、子供の教育活動を止めないように模索しながら進めている状況である。ただ、市教育委員会の対応による一人1台配付されたタブレットを取り入れた授業づくり、リモートによる授業配信が実現したことには大変感謝したい。岡崎は教育委員会を主導として、教育の在り方を含め常に最先端を走りながら進めている。その姿勢と取組は今回も継承され、今後も続いていくものと期待とともに願っている。

さて、本年度も算数・数学部は教育活動をできる限り開かれたものにしていこうと努力してきた。研究テーマは、『主体的、対話的で深い学び』の視点から、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通じて授業改善を目指す。生きて働く知識・理解を習得させ、習得した内容を活用、探究し、思考力・判断力・表現力を育みながら、資質・能力を育成することを目指す。』とした。本年度は小中学校の学習指導要領完全実施となり、時代に即した形に大きく更新した内容である。各項目にも、「チーム学習を取り入れる」「数学的活動の楽しさや数学のよさを気づき味わわせる」など組み込む一方、不易の部分として「ノート指導を工夫」「習得した既習内容をもとに、見通しと振り返りの場を設定」などをバランスよく残しながら、算数・数学として目指すべき授業の方向性を示した。

4つの委員会では、2名の指導員、8名の世話係の先生が核となり、働き方改革を加味しながら精力的に取組が行われた。昨年度ほとんどできなかった読書会は、リモートを取り入れ回数を増やして行うことができた。統計グラフへの取組も地道に続いている。ただ、東海地方数学教育会第68回研究（愛知）大会が残念ながら、校内研修は行われたものの紙面開催となった。竜海中学校、竜美丘小学校、六名小学校、城南小学校の4校は授業者も決まり準備していただいただけに、授業公開による岡崎の質の高い取組を市内外に見せたかった。市教育研究大会は残念ながら直前で中止となったが、多数の先生方がレポートを作成していた。時代を見据えた地道な実践は、これからの期待させるものであった。私は、研修こそが教師自身の授業力や人間力を上げるものになると考えている。今後も、岡崎の先生方が切磋琢磨しあい、全国から学びながらも個別最適に協働的に学ばれる姿を願ってやまない。

最後に、私たちの活動に対して、常に温かくご指導をいただいた岡崎市教育委員会、また、日頃から適切にご助言ご指導をいただいている読書会講師の柴田録治様、栗田万砂夫様はじめ、多くの算数・数学部に協力いただいた先生方に心より感謝している。

令和4年3月

岡崎市現職研修委員会算数・数学部長 高 鋏 利 行